

地方で活躍する 駒大卒業生の 皆さん

第24回

輝く卒業生に
Close Up!



地方から駒澤大学に進学した学生の中には、首都圏での就職とUターン就職で迷っている方も多いと思います。今回は、私の大学時代の話とともに、私が青森県で働くことになった経緯と、就職してからの話をしたいと思います。

私は大学に入る際に、一つ目標を持って入学しました。それは、「異国の地でさまざまなことにチャレンジし、多くの経験を積むこと」です。そこで私が行っていたのが、海外ボランティアや海外インターンシップに挑戦することでした。前者では、モロッコで教

異国での経験を胸に

私は今、青森県で県職員として働いています。地元高校を卒業後に駒澤大学へ進学し、大学卒業後に地元へ戻ってきました。



育系のボランティアを行い、後者では、ベトナムで1カ月間、大学のプログラムを利用してインターンシップに参加しました。その後コロナ禍になってしまったので、あまり挑戦できませんでしたが、海外インターンシップについては、今でもとても大事な経験となりました。

その経験について、少しお話しします。旅行会社のインターンシップに行っており、平日はインターン先で働き、土日は同じインターンシップの仲間と、実際に海外で働いている方の話を聞くという生活を送っていました。海外で生活する上で言葉が通じないことに戸惑いもあり、日本での生活とは全く異なっていました。そのことがとても新鮮で、良い経験ができたと感じています。また生活面ということで、後半の2週間は次第に新型コロナ



青森県庁

風間 健太郎さん

駒澤大学文学部
地理学科地域環境研究専攻卒業
(2022年3月)



最近の旅行(インターンシップで出会った友達と)



ナウイルス感染拡大が見られ、仕事に影響が出ることや、外国人である自分を認識することがあり、「コロナウイルスの世界的脅威や、国の対策の違い、人々の考え方の違いなどを実際に体験し、知ることができて、良い経験になりました。さらに、一番大きかったのは、同じ志を持つ仲間を作れたことです。今でも一緒に海外旅行に行っており、非常に重要な出会いだったなと思っています。

就職を意識する時期には、大学時代の経験を活かし、県外や国外の視点を少しでも持っている自分が地元に戻ることで、何かこの経験を地元に戻元できないかという考えから、青森県庁で働くことと就職活動をしていました。

青森県庁に就職する際にも大学入学時と同じように目標を立てており、それは、就活時に考えていた「経験を活かし県に貢献すること」です。

私はこれまでに二つの部署に配属されています。現在所属している税金の計算関係の部署と、入庁時の企業誘致関係の部署です。企業誘致といってもあまりピンとこない方も多いと思いますが、大まかに説明すると、県外企業が、青森県に拠点や工場を立地する際の誘致やサポートを行う部署です。そちらでは青森県のPRをすることも多くあり、他県との比較や他国の文化風習から、相手がどんなことを考えていて、どういうことに興味を持つのかを踏まえてPR方法を検討することができ、大学時代の経験が活きていたと思います。

社会人になり受動的な仕事が増えるなかで、就職時に立てていた目標を胸に刻み、これからも能動的に仕事に取り組みたいと考えています。

